

《一般成人の部》優秀賞

変わるといふこと

暁高等学校 二年

近藤 愛

私たちは生まれてから何度「変わりたい」と思っただろう。逆に「変わりたい」と思った人の中に変わることが出来た人は何人いるだろうか。「この夏が勝負だ。」夏休みに入る前、私は意気込んでいた。

ある日、図書室に立ち寄りこの本を手にとった。『夢をかなえるゾウ』という、水野敬也さんの本。題名の中にも入っている「夢」という言葉。私にもかなえない夢がある。その夢のためにこの夏休みで周りと差をつけて、志望校への合格に一步でも近づこう。そう思っていた。しかし、具体的に何をしたらいいのかわからず、時間だけが過ぎていた。

この物語の主人公も私と同じような状態だった。そんな中、現れたのは喋るゾウの置き物ガネーシャ。ガネーシャは一日に一つ課題を出す。その課題はあまりにも小さい事で、「本当にこんな事で成功できるの?」と疑ってしまうほどだった。だが、ガネーシャの話を知くと妙に納得していた自分がいた。その中でも私の心の中に残っている課題が二つある。

一つは、会った人を笑わせる。

この課題、一見成功や変わることになんの関係もないように思えるが、実践しようと思った。まずは同じ部活の子を笑わせることを試みた。私はもともと人を笑わせることが好きだが、いざ笑わせようと思うと難しかった。普段彼女がどんなことで笑っているか、何が好きかとか色々考えて考えて言ったことで相手が笑ってくれたらこっちまで笑いたくなる。二人が笑っていると自然と全体の雰囲気も明るくなった。すると私自身もうれしい気持ちになり、やる気が出た。その時に、「あ、こういうことか。」とやっと気づいた。人を笑わせると良いことしかない。

もう一つは、毎日感謝する。私たちは日々生活する中で何か物足りなさを感じている。しかし、忘れてはいないだろうか。私たちの周りには感謝しなければならぬもので満ちているということ。感謝と聞くと、両親や、友達、先生が浮かぶかもしれない。もちろんそれらも大事だが、自分の周りを見渡してみると、ボタン一つ押すだけで明るくなる電気、時間通りに走る電車、蛇口をひねるだけで出てくる水、これらのありがたみに気づいた。十六年生きてきてそんなこと考えたこともなかった。

そこから私の考え方は何かが「足りない」ではなく、もう充分「満たされている」に変わった。「満たされている」という考えに変わってから心に余裕が出来たと感じる。感謝と聞くとうわべだけのよう感じるかもしれないが、うわべだけで良いと思う。大事なものは、あたり前のことを普通という概念に縛らないことだと思ふ。そういうふうと考えてると自然と欲しいものは手に入るだろう。

「変わりたい」と思っている人の中で、何人の人が気づいているだろうか。自分のあたり前の世界に、変わるきっかけがごろごろ転がっていることを。



『夢をかなえるゾウ』

水野 敬也／著
飛鳥新社

《中学生の部》最優秀賞

「魔法」とは何か

楠中学校 三年

田中 まつり

幼い頃に母親を亡くし、いじわるな継母と二人の姉と一緒に暮らすことになった一人の少女。辛くあたらね、召し使い同然となっていた彼女は「灰だらけ」という意味のシンデレラと呼ばれるようになった。

長い間ずっと絶えることなく受け継がれ、世界中の人々に愛されてきた物語『シンデレラ』。継母と姉たちからの残酷な仕打ちに、じつと耐えてきたシンデレラが、魔法の力を借りて幸せになるという物語だ。彼女が、様々な困難にもくじけず辛抱強く乗り切り、幸せを掴むことができたのはなぜなのだろうか。

そこには、彼女の心持ちが深く関係しているのだと私は思う。

シンデレラは決して人をけなさない。継母や姉たちに対してはもちろぬ、相性の悪い人の悪口を言ったり批判したりするようなことは決してしないのである。相手のいいところを少しでも見つけてそこに目を向けるようにすること。それはとても難しいことだと思ふ。人と関わっていくうえで、その時間が長ければ長いほど相手の嫌なところや欠点が目について

しまうことは誰にでもあることだろう。しかし、その相手とどう接するか。コミュニケーションを避けたら、批判したりするか、それとも感じよく接しようと思掛けるか。それは自分次第だといえよう。

また、シンデレラはとても強い心を持っている。使用人の仕事を全てやるよう言われたり、部屋を屋根裏に移されたり、継母や姉たちからひどい事をされた彼女が、最後に

「あなたを許します。」

と言う場面がある。この言葉は物語の中で最も心に響く台詞のひとつだと強く思う。もし自分がその状況に置かれたら、同じ台詞を言うことは果たしてできるだろうか。人を許すということは、とても難しく、強さの証なのだ。

彼女が幸せを掴むことができたのは、彼女が強い心を持っているからだ。我慢する強さ、許す強さ、夢を信じ続ける強さ、そしてどんなに辛いことがあっても勇気と優しさを忘れない心、それらはとても大切なことで、人として持つていたいことである。

小さい頃、透明感のある美しい表紙に魅了されて買ってもらった

本『シンデレラ』。私はそこから、とても大切なことを学んだ。この物語の中にある本当の魔法、それは勇気のことなのだ。

《中学生の部》優秀賞

私と図書館

中部中学校 一年

岡嶋 美杜

いつの時代も、私たちが彼女に惹かれるのは、本当の「魔法」について気づかせてくれるからではないだろうか。

私はこれまで数え切れないほど図書館に行ってきた。小さい頃は、両親が借りてきてくれた絵本を読むだけだったが、だんだんそれだけでは物足りなくなってきた、自分で本を探そうになった。本も分厚くなり、ずっと使ってきた専用のカバンも、重さに耐えかねて底が破れそうだった。自分で好きな作家さんを見つけて、図書館に来るたびに最新本がないかチェックするのが楽しみにした。国語の問題集に載っている物語文を読んでも、「この主人公はこの後どうなっていくのだろう」と、問題をほったらかしにして続きを考えてしまう。

そんな本好きの私が初めて図書館に行ったのは、まだ生まれて三か月の時だった。当時住んでいた横浜市の家の近くに、小さな私設図書館があったのだ。その図書館はけっして立派な建物ではなかったらしい。進駐軍が日本に置いて

いった廃材を使い、地域の人々が協力して建てたのだそうだった。だからなのか、扉がうまく閉まらなかったり、床がキシキシとうなったり、あちこちに不具合だらけでも、部屋の中は毎日ボランティアの人たちが掃除をしていたため、とてもきれいだ。紙芝居や赤ちゃん教室などもよく行われており、母はその図書館のことを知ってから、頻繁にそこを訪れるようになった。そこで、私と同じ

ぐらいの年齢の赤ちゃんをもつお母さんに会い、友達になったこともあったそうだった。午前中はお年寄りが集まるダンスや体操の教室、午後は放課後の子供たちのたまり場。小さくてポロポロの図書館だったけれど、みんなが集まり同じ時間を過ごす、大切な場所だったという。

私はその図書館のことを、残念ながら全く覚えていない。母に教えてもらって初めて、「そうなん

だ」と知ったのだ。でも、私の生活のどこかに、いつも図書館があったのだなあと、改めて思った。休日がやってくるたびに近くの図書館に行っていた時期もある。夏休みは、自由研究のための資料を探しに行った。友達と自転車で図書館に集まり、勉強会をしたこともある。

小学生の時に、校長先生がおっしゃっていた言葉を、私は今も覚えている。「学校のすぐ近くに図書館があるのは幸せなことです」

私は三回も引越を経験しているが、いつも必ず、歩いて行ける範囲の場所に図書館があった。家の周りに図書館があることが当たり前すぎて、校長先生のお話を聞くまで、全然その幸せに気がついていなかった。図書館に近い家を選んでいくわけではないのだが、本当に不思議な偶然である。

《中学生の部》優秀賞

命の大切さを教えてくれた本

港中学校 一年

サムワース エリツサ

私が今から紹介する『ある犬のおはなし』という本は、私の将来の夢へのきっかけとなった本です。

この『ある犬のおはなし』は、最初かわいがっていた犬への愛情がどんどん薄れていき、最後には飼い主がその犬を捨ててしまふ、という人間のあまりにも身勝手な行動とかわいそうな動物の命を描いた本です。小さくて愛くるしかった「ぼく」は、飼い主に

来てくれる。また「ぼく」をたくさん愛してくれると信じて、冷たい床の上で何日も待ち続け、最後には殺処分されてしまいました。この本を読むまで、私は殺処分という言葉を知りませんでした。何も悪い事をしていない命がこの様に殺されるなんておかしい。私は悲しくなり、涙があふれて止まりませんでした。私は何もしてあげられないのだろうか、なぜこんな事が起きるのか、悔しくて悔しくてたまりませんでした。それから私は急激に殺処分について考え始め、何か自分に出来る事は無いのだろうかと思いはじめました。

そして実際に私は四日市の保健所に見学に行き、職員の方からお話を聞いたり、別の日には、ボランティアの保護施設を訪問したり、インターネットで調べて募金をするようになりました。また、一人でも多く子供達、友達にもこの本を手にとってもらいたいと思い、一冊余分に買って、私の通っていた小学校に寄付しました。

このように、このたった一冊の小さな本に出会った事で、私は今まで考えもしなかった命の大切さを真剣に考えるようになりました。「かわいそう」や「こわい」だけで終わるのではなく、この本を通じて友達とずっと命について話し合いたい、学校の授業でも命について学ぶ機会が増えれば良いなと思うようになりました。

私の将来の夢は、日本の動物に対しての考え方を変えて、殺処分ゼロの国にする事です。この『あ

る犬のおはなし』は、今の悲しい現実と、明るい将来の夢の両方を私に気付かせてくれた、大切な本

《中学生の部》優秀賞

未来を信じて

港中学校 三年

青木美琴

「これからやって来るきみたちの未来を信じなさい。自信を持っていいんだよ。そしてあとは難しいこと考えないで、のんびりゆつくりと進んでいけばいいんじゃないかな。」

これは私が大切にしている言葉です。福田隆浩さんの『ふたり』に出てきます。私は本を読むことが好きです。その中でも福田さんの本は大好きで出版された本は全部読んだぐらいでした。読み終えた後に温かい気持ちになれる所に魅力を感じたからだと思います。

そんな私も受験生になり、本を読む機会が少なくなっていました。なので『ふたり』も本棚の中で忘れられていたのです。この作文を書くところ三年ぶりに『ふたり』を読んだ時、印象に残った場面や感じる事が今までと違うことに気がつきました。

今までは主人公がいじめられていたクラスメイトの女の子を助けるというストーリーが好きでし

になりました。これからはずっとずっと繰り返し、読み続けていこうと思います。

た。最初は気が弱くて周りの雰囲気

に流されていた主人公が女の子を助けるためにどんどん強い心になっていきいじめから救ってあげる所を読んで「かっこいいな。」

と思ったのを覚えています。また、二人とも本が大好きなので共感できる場面がたくさんあり私も登場人物になった気分の中で夢中になって読んでいました。

久しぶりに読んでみると、今までのような感情にはならず、まったく違う視点で読んでいました。主人公の立場に注目していたのです。主人公は小学校六年生。中学受験をするため、受験生です。今までは同じ歳という視点で読んでいたのですが、今は年齢は違っても同じ受験生という視点で読んでいました。公立の中高一貫校へ行くため、冬休みもほぼ毎日しかたなく塾へ通う主人公。周りの期待に応えようと勉強し続けていると将来に不安を抱くようになりま

してくれたのがあの言葉でした。

私も夏休み中、ほぼ毎日塾へ通う日々を送っています。頑張っ

勉強しているけど、本当に第一志望校に行けるのだろうかと不安になることもあります。そんな時、『ふたり』を読んで、あの言葉が胸に響きました。まるで自分に言われているような気がして何回も読み返しました。

この本は受験生の人達に読んでもらいたいです。同じ受験生なの

で共感できる所がたくさんあり、あの言葉に救われる人もいます。

私は受験まであと半年しかなく気持ちばかりが焦っている中で、のんびりでもいいんだと思えるようになりました。目標としている高校に合格し、そして自分が思い浮かべている未来に進みたい。そのため、まずこれからやって来る未来を「信じる」ことから始めたいです。



『ふたり』

福田 隆浩／著
講談社

《小学生の部》最優秀賞

戦争をなくすための道しるべ

浜田小学校 六年

吉田菜月

私がこの『見上げた空は青かった』を読んで、一番心に残ったのは、主人公・ノエミと妹・ロザンナがガス処分室へ向かうとしてしまっているときです。このとき、ノエミたちと同じユダヤ人女性がガス室へ行かないようにノエミら

を誘導しました。その女性はささやき声で、ドイツ語ではない、ノエミたちが生まれた国の言葉で伝えました。それはあまりにも残虐だと私は思いました。場所はアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所。列車から出て、老人・子

連れの女・子どもと、子どものいない女・若い男に分類されます。私が残くたと思ったのは、自分の生まれた国の言葉を話してはいけなかったからです。また、老人・子連れの女・子どもはまっすぐガス室へ送りこまれ、殺されてしまうからです。これはどれもひどいことです。

もう一つ心に残った場面があります。それはまた、強制収容所の出来事。ノエミたちと同じ部屋の少女が「病院」に引きずりこまれ、腹を切られてしまったのです。その少女は、収容所にもどされ、翌朝、みんなの前で死んでしまいました。これは、この少女が死んでしまうところを生きている人に見せつけ、恐怖を植えつけるという目的のもとで行われました。「病院」で殺してしまうこともできるのに。これには、ひどくショックを受けました。その後、同じ部屋の人たちは「次か次か」と自分の番が来るのをおそれていました。こんな恐怖を私は味わったことがないので、とてもびっくりしました。人は人にこんなことをするのかと。

この本はユダヤ人のノエミと、日本で暮らす風太の話です。二人は戦争の悲惨さを感じ、つながり合っています。

私は今、学校で音楽会の練習をしています。音楽会で「COSMOS」という曲を歌います。この曲は生命誕生の瞬間や命の尊さを訴えています。なかでも、私が一番感じ取ったのは、「命の重さ

は、どこであつてもいつでも同じ」ということです。この本やこの曲の歌詞を読んだことで、命の重さや差別について深く考えるようになりしました。昔も今も差別や戦争がありますが、それは、命の重さはみんな同じ、という人間の原点を忘れているから起きてしまうのではないのでしょうか。

この本は私たちに戦争の悲惨さや差別をなくすことの大切さを訴えていると思います。私がこの本を読んだ理由は、戦争についてくわしく書いてあつて、後世にも伝

えられそうな一冊だと思ったからです。この本は大人になつても読みたいです。それくらい強く命の重みを訴えているのです。今にも戦争が起きそうな世の中ですが、私が疑問に思つたのは、なぜ、大人たちは戦争をなくそうとしなののか。なぜ、人は自分と同じ、人を殺せるのか、ということですか。私は戦争が大きいです。難しくても、少しずつ平和な世界に近づけるために、この本は後世に残すべきです。



『見上げた空は青かった』

小手鞠 るい／著
講談社

どみました。先生がなつとくしたのをきつかけに、ぼくも私もと宿題を忘れて忘れた理由を話していきます。

ぼくは、クラスのみんなの宿題を忘れた理由が面白くて読むのにむちゅうになりました。宿題を忘れた理由を聞いている先生もクラスのみんなんも楽しそうで、ぼくもいつも間にか四年二組の生徒になつて、いっしょに話を聞くのを楽しんでいました。

ぼくは、宿題を忘れたことがあまりありません。宿題を忘れて先生におこられるのがこわいし、忘れた理由をウソの話でごまかすこともできません。そんなゆう気もあります。でも、この四年二組の中でなら、ぼくも宿題を忘れてきて、その理由をみんなに言えると思います。最初はきつと、まだくよくよやんでしまうかもしれませんが。でも、ぼくは楽しい話が大好きで、楽しい話を考えるのも大好きなので、気分がもり上がって一生けん命考えて話を発表すると思います。

宿題を忘れた理由を話すということは、とても時間がかかつてむずかしいです。きつとぼくなら夕方から夜までかかつてしまします。いつもの宿題とはちがうけど、宿題の理由を考えることが宿題となつていたんじゃないかな、と思いました。

ずっと宿題を忘れることが続くと思っていたのに、やつぱり宿題をやったほうがいいという生徒も出てきて、言い合いをしだし

てしまします。クラスのふんいきが悪くなった時に、今度は先生が宿題を作つてくるのを忘れてきます。先生が宿題を忘れてきた理由は、竜が出てきたりして、はく力があつて、ぼくは先生の話にむちゅうになりました。クラスの生徒も先生の話を聞いて、またもり上がつてクラスが一つにもどつたように思えました。ぼくも、クラスが生徒が言つたようにこんなに楽しい話なら先生が宿題を作つてくるのを忘れてくれないかな、と

る方が時間がかかつて話を考える方が大変なんだと思いました。ふつうに宿題をやつたほうがすぐに終わつてかんたんだろうけど、ぼくは、ときどきは忘れて理由を一生けん命考えてきて、次の日クラスのみんなんに話すのも楽しいだろうなと思います。そして、先生も宿題をじゅんびするのを忘れてきてくれて、また面白い理由を聞かせてほしいです。



『先生、しゅくだい わすれました』

山本 悦子／作
佐藤 真紀子／絵
童心社

《小学生の部》優秀賞 本に関する交流

浜田小学校 六年

木村 好花

「おつでてるでてるー」私は ページでチェックします。そして月に一回程文庫本の新刊をホーム そのホームページで本のしゅみを

《小学生の部》優秀賞

『先生、しゅくだい わすれました』を読んで

桜台小学校 四年

久留美 諒 真

四年二組のゆうすけは、宿題を忘れてきた時にきとうな言い訳をしてしまします。先生にも「ウソつくな、もっとバレないよう

なので、聞いた相手が楽しくなるようなのじゃなくちゃ」と言われてしまします。次の日、わざと宿題を忘れて物語を作つて先生にい

分かち合える人にたくさん出会いました。年れいも名前も分からな人たちだけど、新刊がどうだったとか、本はどこで読むのが一番良いとか、自分が思う「本」をぶつけ合って楽しんでます。

そういう人たちがいて良かったと思うことがいくつもあります。

一つ目は、面白そうな本だけど、買おうか迷っている時、相談することがあります。アドバイスをいただいたおかげで、今までお得な経験をたくさんしてきました。例えば、買おうか迷っていることを相談すると、その本を読んだ人が書評を教えてください、迷いがなくなり、後かいたことがありません。その本を読んだ人たちの意見を聞くことで、ものの見方も広がります。

二つ目は、共感してもらえます。とです。本を読んで考えたこと、思ったことを言つて、共感してもらえらるとうれしです。それに、共感できるコメントがあると、「それそれ！」と私も返したくなりま

す。三つ目は情報を交かんできらいうことです。私一人では知りえなかつた情報を、知ることができま

す。例えば、サイン会情報や、本のフェスなど色々な情報を得ることができま

す。でも、本好きしか集まらないところは、熱く、深いトークをすることができま

す。一つ目は、面白そうな本だけど、買おうか迷っている時、相談することがあります。アドバイスをいただいたおかげで、今までお得な経験をたくさんしてきました。例えば、買おうか迷っていることを相談すると、その本を読んだ人が書評を教えてください、迷いがなくなり、後かいたことがありません。その本を読んだ人たちの意見を聞くことで、ものの見方も広がります。

二つ目は、共感してもらえます。とです。本を読んで考えたこと、思ったことを言つて、共感してもらえらるとうれしです。それに、共感できるコメントがあると、「それそれ！」と私も返したくなりま

す。三つ目は情報を交かんできらいうことです。私一人では知りえなかつた情報を、知ることができま

《小学生の部》優秀賞

わたしの読書法

三重西小学校 四年

渋谷 心愛

わたしは読書がとても好きです。ようち園の年長から自分で本が読めるようになりました。今までで少なくとも100冊くらい読んだ

のテレビがある部屋です。その理由は、みんながいるのであたたい気持ちになつて読みやすいから

です。読書する時間は10分くらいの時もあるし、休みの日は何時間も読むこともあります。読書する場所は、その日の一番好きな所で読みます。今まで読んだことのある場所、自分の部屋や家の中の階段、げんかんの前、ねている部屋、一階のテレビがある部屋です。一番よく読書する場所は、一階

わたしは読書の方法はちよつとかわつているところもあります。それは、ねころんで読書することです。もちろんすわつて読む時もありま

るポイントがいくつもあります。それは文字の大きさと絵の多さ、そして本のタイトルです。

文字が小さすぎると読みにくいし、絵がすくなくいと本の内ようをそうぞうしにくいです。なかでも本をえらぶポイントで一番大切にしているのは、「本のタイトル」

です。それはおもしろそうなタイトルでないと、読みたいという気持ちにならないから

です。友達には読書が好きでない人もいます。好きになるには、絵本から読んでいけばいいと思

います。好きな本を始めて、どんどん文章の長い本を読んでいつたら、読書が好きな

読書がとくいでない友達に、楽しいと思つてもらうために『ころのふしぎなぜ？』の本をおすす

あります。「楽しい」や「かなしい」、「こわい」や「おもしろい」といった気持ちになるのはどうしてなのか

「なぜ歌を歌いたくなるのか」や「おまじないは本当にかうのか？」というおもしろい内ようもある

ので、読書がにがてな人も楽しんで読めると思

読書のすてきなところは、わからなかつた事を知ることができるところ

です。伝記を読めば、れきしを知ることができま

す。本の人の気持ちになつていろいろそうぞうするの



『ころのふしぎ なぜ？ どうして？』

大野 正人／原案・執筆
村山 哲哉／監修
高橋書店